

「ぬっふう♥ずぶずぶずぶ♥」デカチンがオマンコにズブズブと飲み込まれていく。

「くああ♥オチンチン♥おっきい♥」

「くう♥締め付け・やべえ♥・・・よし・動くぜえ♥」

「ぬこぬこぬこぬこぬこぬこ♥！」

「ヤダ♥ヤン♥ヤア♥ダメ♥ダメ♥エ♥気持ちいい♥」

サルタはライザの両手をしっかりと掴み、壁に押し当てながら腰を起用にヘコヘコと動かしている。壁に押し付けての背面座位は本当にすごかった。ライザは全く逃げられずに下からの突き上げになす術なくイキまくるしかなかった。G スポットを擦りながら子宮口まで届くため、外イキと中イキの感覚を同時に食らい、抗えない快感の波が何度も押し寄せる。感じれば感じるほど、ライザの足は開いてきてハメ潮をいっぱい漏らしてしまう。

「すごお♥こんな体位♥初めて知ったあ♥とっても上手う♥セックス上手う♥」

「すげええ★★すげええ★★羨ましいいい★★俺も・ヤリてええ★・・・あ！」

「ドピュ★ドピュ★ドピュ★ドピュ★ピュル★」

哀れにも安定のノーハンドマゾ射精をキメてしまう俺。

先刻の回復剤のせいで、ザーメンが大量に吹き出す。

そんな無様な俺には目もくれず、サルタとライザはやりまくる。

「ぬこ♥ぬこ♥ぬこ♥ぬこ♥ぬこ♥ぬこ♥ぬこ♥ぬこ♥」サルタのドエロい腰振り。

「ふー！ー♥！！ふー！ー♥！！」

サルタの息がどんどん荒くなっていく。よっぽど気持ちいいのだろう、先ほどよりもライザに体を密着させ、押し付けている。

「アンアン♥当たるう♥あん♥はあん♥子宮が・押されてあ♥うほお♥おほお♥気持ちよすぎるう♥この体位・最高に・好きいい♥」

「うおお♥気持ち良すぎて、俺も我慢できねー♥」サルタが吠える。

「パンパンパンパンパンパン♥」サルタの本気ピストンが炸裂する。

「あ♥！早っ♥！パンパン・早あいい♥おわん♥いやあん♥やあん♥スゴ♥スゴ♥すごい♥勢いがある♥アン♥全然・♥さつきとお♥違いう♥ダメ！イク！あっ♥ダメ！ダメ！ダメ♥！イクイクイクイクイクイクイクイクイク♥」

舌を出し、鼻の穴を広げ、最高にドエロい貌で俺を見つめながら昇り詰めるライザ。

ライザの足元にはハメションで大きな水たまりが出来上がっていた。チンポのデカさとセックステクニクの違いで、これほどまでに女性は乱れるものなのか・・・俺はこれまでに見たこともないライザの乱れっぷりに、サルタへの敗北感と嫉妬感に打ちのめされた。

「すごお♥流石、サルタくんだわ♥ふふ♥ほら、エクセリオン、お前の腰だけ、動くようにしてあげたわよ♥エアーククカクしなさいよ♥」

俺はサルタと共に射精すべく、サルタの動きに合わせてエアで腰をカクカクさせた。

「カクカクカク！すげええ★★カクカクカクカク！すげええ★★カクカク！羨ましいいい★★カクカクカク！俺も・ヤリてええ★カクカク！・・・あっ！」

「ドピュツ★ドピュツ★ドピュ★ドピュ★ピュル★」

サルタと同時にどこか、ソッコーでお漏らしする雑魚すぎる俺。

無駄打ちザーメンが哀れに巾着袋のような皮の先から垂れる。

一方サルタは本気ピストン状態だ。

「パンパンパンパン♥！！お！おお！うおお！！パンパンパンパン♥！！イクイク！ヤッ  
べ！！イクイク！パンパンパンパン♥！！デカチンから濃っゆいイカ汁、ぶっこくう  
う！！パンパンパンパンパン♥！！マジ出る！！うお出る！出る出る！！イクイク！う  
おお！！パンパンパンパンパン♥！！ダメだあ！イク！ダメエ！！イ  
クイクイク！あっ！イク！イク！！イッく~~~~~~~~♥♥♥！！！！！！」

「ドドドピュ♥！！ドッピュ♥！！ドピュ♥！！ドピュ♥！！ドピュ♥！！ドピ  
ュ♥！！ドピュ♥！！ピュッピュッピュ♥！！ドピュ♥！！ドピュ♥！！ドピッピ♥！！ブピ  
ュブピュ♥！！ブピュ♥！！ブブピュ♥！！ヌピュ♥！！ブブピュ♥！！ズピュ♥！！ドピュ♥！！ピ  
ュルピュルピュル♥ズピュ♥ピュ♥」

「お・・♥ほお〜♥ほへえ〜♥しゃ・・射精で・・イクウ♥」

ライザも白目を剥いて昇天していく。

「き・・きもち・・いい♥」サルタもアへ顔で昇天した。

「カクカクカク★ピュル★カクカクカクカク★ピュル★」

俺は2人が昇天したあとも腰振りを止めることができず、無様にノーハンドマゾ射精をキ  
メ続けた。

「マリア様あ★俺も我慢できません★」

マリアのオマンコと尻穴を舐めまわしていたノーマンが必死に懇願する。

「いいわ♥私も興奮してきたから、ハメさせてあげる♥」

マリアは素早くノーマンのチンポにコンドームを被せるとボディコンスーツを素早く脱い  
で、アクリルの壁に手を当て、尻を後ろに突きだした。マリアの美しいオマンコが、ノ  
ーマンの唾液でドロドロになったドエロいオマンコが丸見えになる。

「さあ♥早くきてえ♥」尻を振り振りするマリア。

「おほほお★うほおお★やつほおお〜★入れますうう★」

ノーマンはマリアのオマンコにゴム付きチンポを突っ込んだ。

「ぬつぶう♥」ノーマンのペニスがマリアのエロマンコに飲み込まれる。

「あああん♥」マリアが感じた声を出した。

「うおおお★ヌツルヌルで・・締まるうう★」

マリアの巨尻を驚掴みにしたまま、快感に悶えるノーマン。

「ああん♥突いてえ♥早くう♥」とマリアが急かす。

「ぐおお★し、締め付けられて・・きき、気持ち良すぎて・・動けな・・い★」

あまりのオマンコの気持ち良さに射精しそうになる早漏ノーマン。

「ほらほら♥早くう♥」ノーマンに変わって尻を前後にスライドするマリア。

「わひい★チンコ擦れるうう★・・・は、発射するっ★ブピュ★ドピュ★ヌピュツピュ★」  
「え？はあ？え？嘘でしょ？出てる？あ、出てるわ！生じゃないのに？もうイッちゃったの？我慢できなかったの？？はあ？雑っ魚過ぎだわ！！」マリアは呆れてしまう。  
ノーマンは自分では動けず、相手のスライド、それもたったの3スライドで暴発した。  
「イ・・・イッちゃったああ・・・★★」アホ面で悔しがるノーマン。  
マリアがおマンコからチンポを抜く。  
ノーマンのチン先のゴムには精液が発射されていた。



「もう！早いだけじゃなく、量も少ないし、薄っいわね。雑魚チンポくんだわ」  
マリアになじられ、真っ赤になって立ち尽くす哀れなノーマン。

「あははは♥マリア！雑魚チンポじゃあ、全然気持ち良くなれねーだろ？この壁、解除しろ！今度はお前をイカせてやるからよ♥」

「はい♥サルタくん♥」

そう言うとマリアは魔法でアクリル板のような壁を解除した。

「マリア、この負け組早漏チンポくんを寝かせろよ。本物のセックスってヤツをたっぷり見せてやるぜ！」

「うふふ♥あれ、やるのね。」

マリアはそう言うと、ノーマンを魔法で括り、仰向けに寝かせた。

「くくく♥お前、マリアに惚れたろ？マリアにチンシコされてアホ面さらして喜んでたもんなあ。残ゝ念。マリアは俺のペットなんだよね♥」

マリアはノーマンの顔面を跨ぐと、膝をついて、バックの体勢をとった。

ノーマンはマリアのおマンコを下から見上げるような格好になった。